

ぼくたちわたしたち
生まれ変わりがかったなあ!



ぼくはレジぶくろくん。

とっても便利で、野菜を入れたり

荷物を入れたり色々なものに

使われているよ。

それに、とっても軽いんだよ。

ものを入れたり



とっても
かるーい

ぼくは、
レジぶくろくん





わたしは、
ペットボトルちゃん

みず
水を
い
入れたり



わたしはペットボトルちゃん。
とっても便利でジュースや水を入れたり、
調味料を入れたり色々なものに使われて
いるよ。それに、キャップをしめると
こぼれないんだよ。

ドレッシングを
い
入れたり





ポイ ポイ

もう、いらないから
すてちゃおう



でも、人間に使われた後は、
人間にポイすてされてしまうことが
あるのです。
レジぶくろくんとペットボトルちゃんは、
い言いました。
いやだあ、すてないでえ！

いやだあ！



すてないでえ！



ポイすてされたレジぶくろくんは、
かぜとかわお
風に飛ばされて川に落ちてしまいました。
レジぶくろくんは必死にさげびました。
わあ～、だれか助け^{たす}てえ！



まあ、大^{たい}変^{へん}。

わあ～、だれか助け^{たす}てえ！

その時、川の近くにポイすてされていた
ペットボトルちゃんが、言いました。
レジぶくろくん大丈夫？
今、助けるからね、待っててね！

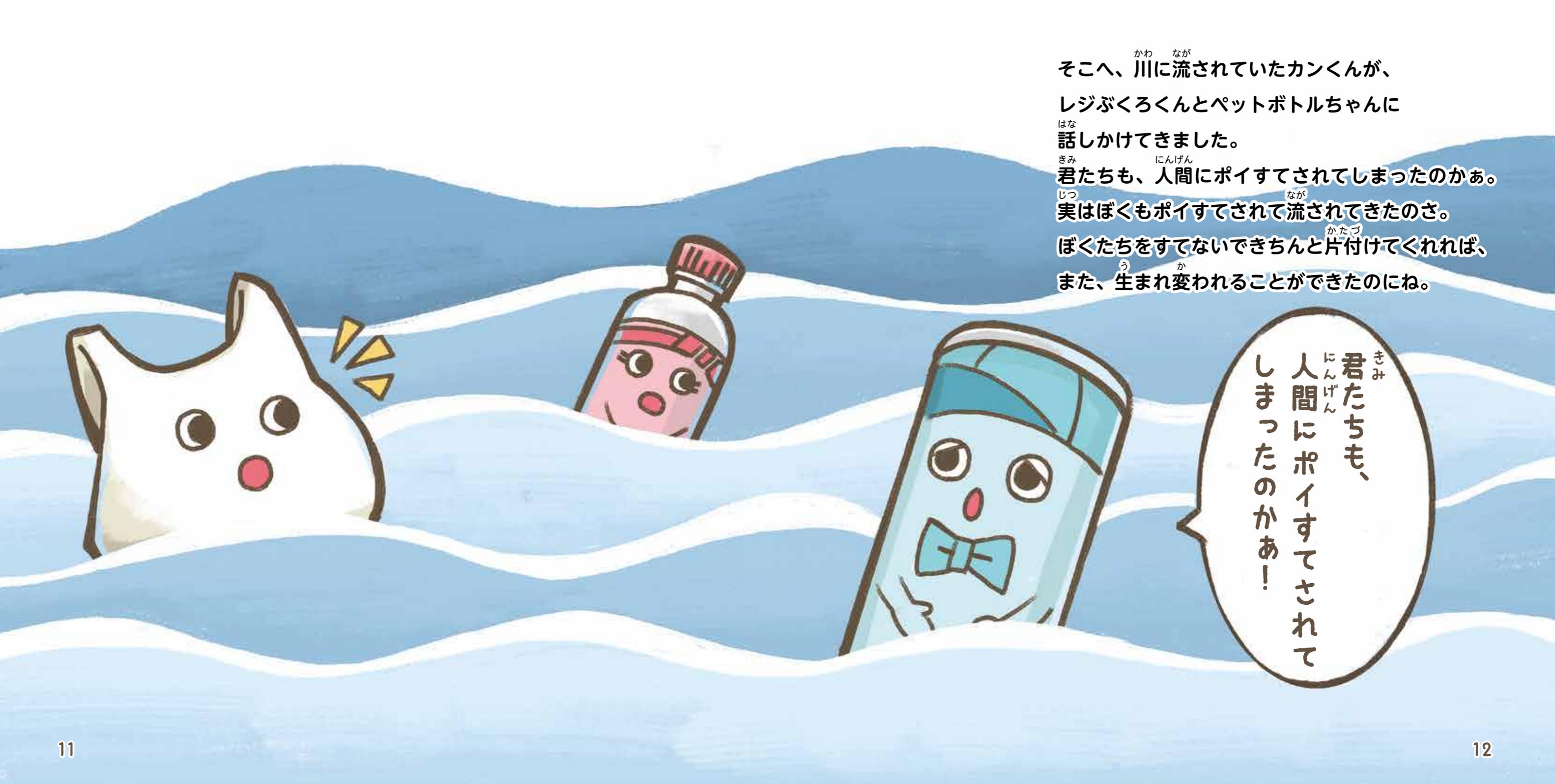
今、助けるからね、
待っててね！



レジぶくろくんを助けようとしたその時、
すべて川に落ちてしまい、
いっしょに流されてしまいました。

たすけてえー！





そこへ、川に流されていたカンくんが、
レジぶくろくんとペットボトルちゃんに
話しかけてきました。

君たちも、人間にポイすてされてしまったのかあ。

実はぼくもポイすてされて流されてきたのさ。

ぼくたちをすてないでちゃんと片付けてくれば、

また、生まれ変われることができたのにね。

君たちも、
人間にポイすてされて
しまったのかあ！

レジぶくろくんとペットボトルちゃんとカンくんは、
それぞれ、生まれ変わりたいものを思いうかべました。
そして、レジぶくろくんは、言いました。
ああ～あ、生まれ変わりたいなあ。

生まれ
変わりたいなあ



便利な物に
生まれ変わりたいよお



ペットボトルちゃんも言いました。
わたしも生まれ変わって、今度はきれいな洋服に
なりたいなあ。カンくんも言いました。
ぼくだって、便利な物に生まれ変わりたいよお。

きれいな洋服に
なりたいなあ



レジぶくろくんとペットボトルちゃんとカンくんは、
生まれ変わりたいと思いながら川を流れていきました。
すると不安に思ったレジぶくろくんは言いました。
でも、ぼくたちはこのままどこへ流れていくの？
カンくんは、ゆっくりと答えました。
海さ、海まで流れていくのさ。

どこまで
流れていくの？

ペットボトルちゃんは、今にも泣き出しそうな声で言いました。
ええ～、海！そんなところまで流れるのお、いやだ～よお。

それから、どれくらい流れたのでしょうか。
みんなつかれてしまいお話もできなくなりました。

そして、しばらくすると、
海が見えてきました。



レジぶくろくんとペットボトルちゃんとカンくんが
海に流れ着くと、カンくんは言いました。

もう、きみたちとはお別れだね、ぼくは重たいから
流れがないとずんでしまうのさ。

さようなら元気だね。

今度は、みんなで生まれ変われたらいいね。

ペットボトルちゃんは、泣きながら言いました。

いやだあ、行かないで、さみしいよお。

レジぶくろくんも泣きそうになりながら、言いました。

さみしいけどお別れなんだね、

今度は、みんなで生まれ変わろうね、約束だよ。



さようなら

カンくんは、お別れを言うと
ゆっくりゆっくりしずんでいき、
とうとう海の底にたどり着きました。

海の底には、たくさんのよごれた
カンくんの仲間がしずんでいました。
すると、よごれた顔のカンさんが
話しかけてきました。



えーん えーん

また、だれか落ちて来たのか、
ぼくらはみんな人間にポイすてされてここに流れ着いたのさ、
君もかわいそうだけど、このままぼくたちみたいにどんどん
よごれていき、ここで一生くらすのさ。
カンくんは、悲しくなり言いました。
これから、ず〜とここにいるのか。
なんだか、なみだが出てきちゃったよ。
とうとう、カンくんまで泣いてしまいました。

また、
だれか落ちてきたのか。



そのころ、レジぶくろくんとペットボトルちゃんは、
カンくんとのお別れに泣きながらういていると、
とつぜん大きな波が打ち寄せてレジぶくろくんは
遠くに流されてしまい、ペットボトルちゃんは
キャップが外れてしまいました。

ペットボトルちゃんは、さげびました。
ああ～あたしのキャップ、待ってえ。
でも、キャップはどんどんはなれていき、
ペットボトルちゃんは、
え～ん、え～んと、泣きじゃくりました。



あたしのキャップ、
待ってえ！



そこへ、ペットボトルちゃんの外れたキャップを
ウミドリが食べ物とまちがえてくわえました。
ウミドリは言いました。

やったあ！
食べ物も取れたし子どもたちも喜ぶぞ。
そう言うと飛んで行ってしまいました。

ペットボトルちゃんは、
必死にさげびました。
返して、わたしのキャップ〜！

食べ物も取れたし、
子どもたちも喜ぶぞ！

返して、
わたしのキャップ〜！

ペットボトルちゃんは、泣き続けていると
小さな魚たちがたくさん集ってきました。

そして、魚たちがペットボトルちゃんに話しかけてきました。

ねえねえ、あなたはどのように泣いているの？

ペットボトルちゃんは、泣きながら答えました。

わたしのキャップが、ウミドリに食べられてしまったの。

魚は言いました。

それは、かわいそうだね、それとも一つ聞きたいんだけど、君は魚なの？

最近、この海であなたにそっくりな仲間を

たくさん見かけるようになったんだけど。

泣いてるの？
どうして

ペットボトルちゃんと言いました。

ちがうよ、魚じゃないよ、

わたしはとっても便利なペットボトルちゃんなの。

でも、人間にポイ捨てされて

ここまで流れて来たの。

えーん、えーん。

えーん
えーん

そのときです。

とつぜん^{おお}大きなクジラがたくさん^{ちい}の小さな魚たちと
ペットボトルちゃんを^{ひとくち}の^こ一口で飲み込んでしまいました。

キヤ——！！

おお
大きなクジラは、^た食べ物とまちがえてペットボトルちゃん
までも飲み込んでしまったため、^{くる}苦しくなり^{よわ}弱ってしまい、
^な泣きながら^{うみ}海の底へ^{そこ}しずんでいきました。

おなかがいいたいよう。

しばらくすると、ペットボトルちゃんと
^{さかな}魚たちを^の飲み込んだ^{おお}大きなクジラは、^い言いました。
なんか、^た食べ物^{もの}じゃないものまで^た食べちゃったかなあ。
おなかがいいたいよう。くっ、^{くる}苦しいよう。

そのころ、ペットボトルちゃんと、はなればなれになつたレジぶくろくんは海をただよっていました。
すると、ウミガメがやってきて、言いました。
おっ、大好物なクラゲじゃないか、いただきます。す。
レジぶくろくんは、必死にさげびました。

わあ～、やめてよお、クラゲじゃないよ、
食べないでよ。
しかしウミガメは、クラゲとまちがえて
レジぶくろくんを食べてしまいました。
レジぶくろくんは、やぶれてしまい、
とうとう顔だけになってしまいました。

やめてよおー！

いただきますす！



レジぶくろくんを食べたウミガメは、言いました。
ぼくは、大好物のクラゲを食べただけなのに、
おなかがいいし、なんだか苦しくなってきたよお。
もしかして、クラゲじゃなかったのかな。
あいたた、おなかがいいよう。
レジぶくろくんを食べたウミガメは、苦しくなって
泣きながら、海の底へしずんで行ってしまいました。





かお
顔だけとなったレジぶくろくんは、
なみ りゅうぼく
波や流木にぶつかり
ちい
どんどん小さくなってしまいました。
レジぶくろくんは、さげびました。
いたいよ、さみしいよ～、だれか、いないの？

そしてレジぶくろくんは、どうすることも出来ず
一人でただよっていると、なんだかきたないものが
勝手に、レジぶくろくんに引っ付いてきました。
それは、有害物質くんです。



有害物質くんは言いました。
おっ、やったあ、小さなレジぶくろじゃん、
みんな引っ付こうぜ、それー！
レジぶくろくんは、言いました。
なんでぼくに引っ付くの？
きたないよ、いやだよお。
引っ付かないでよお。

引っ付かないでよー！
いやだよあ、

そして周りを見わたすと、体にきたない有害物質を
引っ付けた仲間がたくさんいました。

そして、その仲間が言いました。

ぼくらは、マイクロプラスチックっていうんだ。

きみも、すてられてやぶれて小さくなったのかあ。

ぼくらずいぶん前にすてられて流されてやぶれて小さくなったんだ。

そうして海をただよっていたら、きたない有害物質が引っ付いて来て、

きたなくなったのさ。どうやらぼくらの体は、きたない有害物質を

引き寄せてしまうみたいなんだ。

これではぼくらが海をよごしてしまうよね、でも、ぼくらでは

どうすることもできないんだ。

マイクロ
プラスチック？

ぼくらは
マイクロプラスチック
って言ったんだ。

レジぶくろくんとマイクロプラスチックくんたちが

^{はなし}お話をしていた、^{とき}その時です。

たくさんの魚たちが、^{さかな}食べ物と^たまちがえて

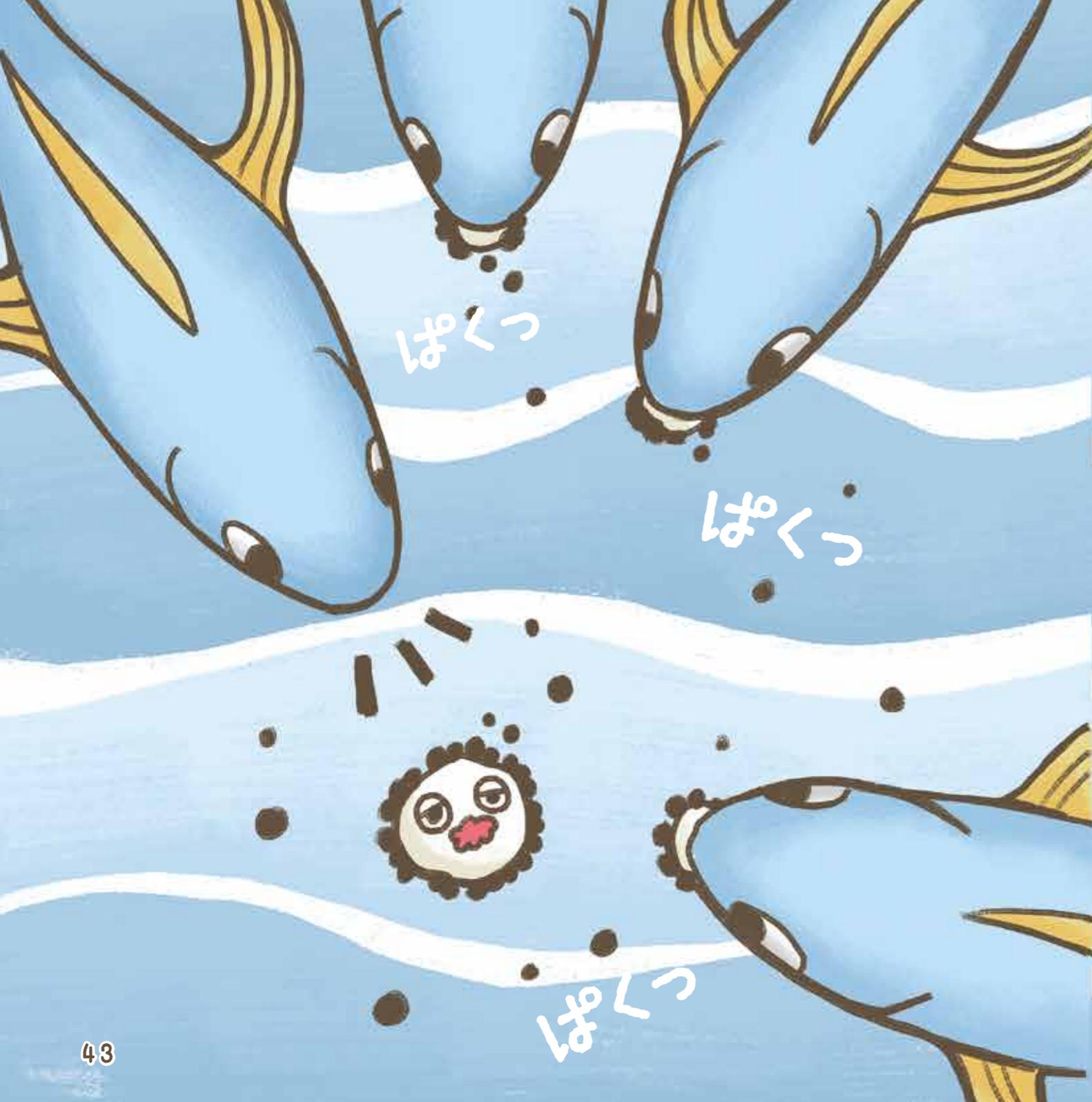
マイクロプラスチックくんたちを^た食べにきたのです。

マイクロプラスチックくんたちは、^{おお}大きな^{こえ}声でさげびました。

あぶない、^た食べられるぞ、みんな^{いそ}急いでにげろー！

レジぶくろくんも、^{いっしょう}おおあわてで一生けんめいにげました。

急いでにげろー！
みんな



しかし、^{つぎつぎ}次々とマイクロプラスチックくんたちが^た食べられて、
^{いっしょう}一生けんめいに^たげていたレジぶくろくんもとうとう食べられてしまいました。

いただきます



こんど
今度は、ポイすてをした人間が魚つりにきました。
にんげん はじ
人間がつりを始めると、マイクロプラスチックくんや
レジぶくろくんを食べた魚が次々につられていきました。
にんげん い
そして人間はうれしそうに言いました。
きょう こ よろこ
わあ、今日は、たくさんつれたぞ、子どもたちも喜ぶぞ、
たのしみだな。そう言うと、人間はうれしそうに魚を
たくさん持って帰りました。



みな
皆さん、この物語をどう思いますか？
ポイすてによりたくさんのレジぶくろくんや
ペットボトルちゃん、カンくんたちが
川に流されて海にたどり着きます。
それを、クジラやウミガメや鳥、
魚たち、海に住む生き物が食べ物と
まちがえて食べてしまいます。

わたしたち人間も、
レジぶくろくんたちを食べた魚を
食べているかもしれません。
では、どうすればレジぶくろくんや
ペットボトルちゃん、カンくんたちが
海に流れずに、生まれ変わることが
できるのでしょうか？
一度、みんなで考えてみましょう。

それは、まずポイすてをしないこと！

そうすれば、川に落ちて海に流れ出ることはありません。

ポイすてしないで
おねがい



つぎに、決められたところにすること！

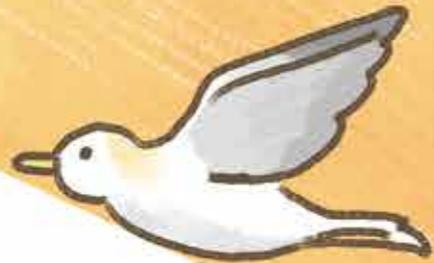
レジぶくろは資げんプラのゴミ箱へ、ペットボトルはラベルとキャップをはずして、ペットボトルのゴミ箱へ、外したラベルとキャップは資げんプラのゴミ箱へ、カンはカン類のゴミ箱へすてましょう。そうすれば、みんな生まれ変わることができるんだよ。

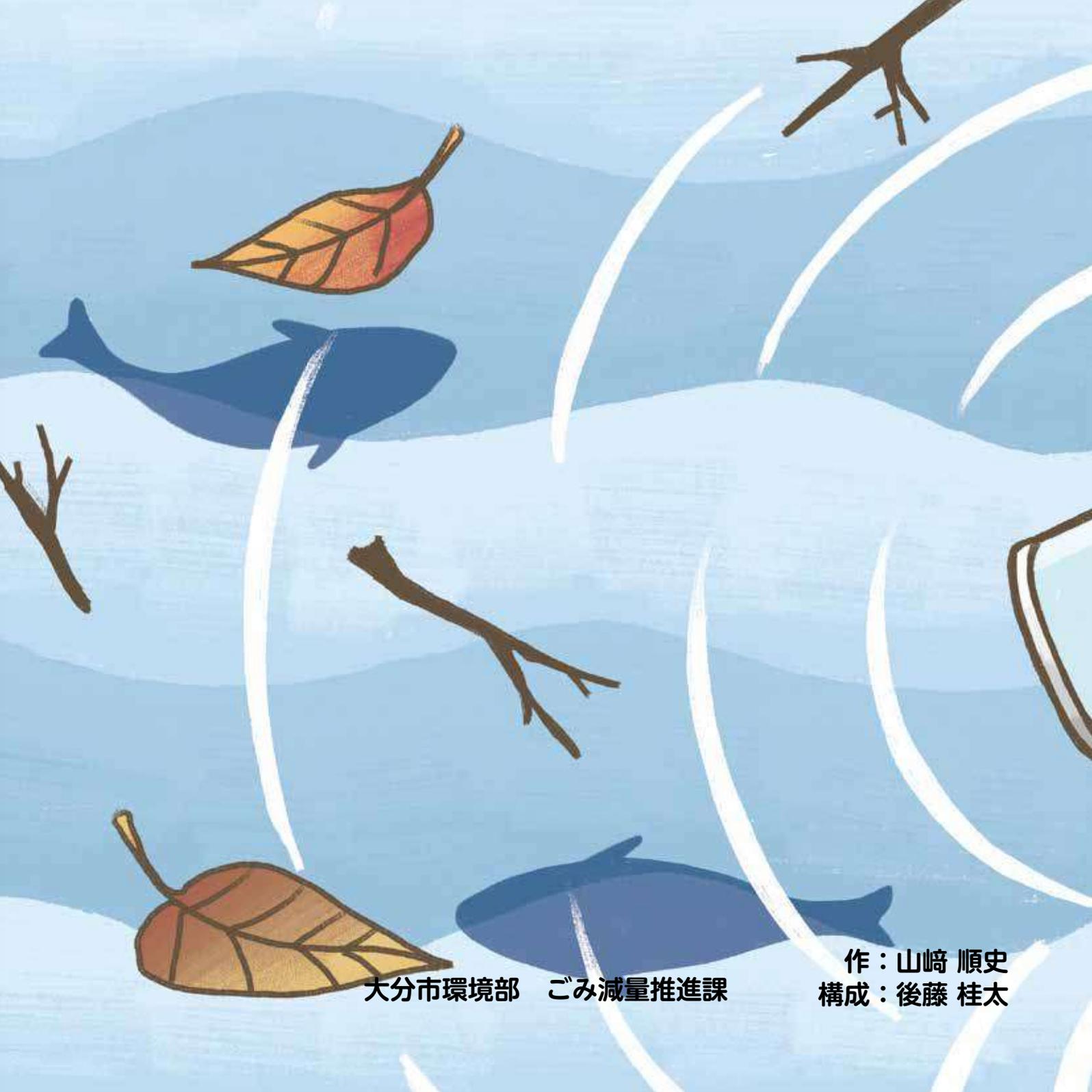


これからもみんなは、ポイすてをしないで、決められたところにすてようね！
やくそく
約束だよ。

そうすれば、レジぶくろくんやペットボトルちゃん、
カンくんも生まれ変わることができるよ！

やくそく
約束だよ！





大分市環境部 ごみ減量推進課

作：山崎 順史
構成：後藤 桂太